

衆議院文部科学委員会ニュース

平成 25. 10. 30 第 185 回国会第 1 号

10 月 30 日（水）、第 1 回の委員会が開かれました。

1 小淵委員長から就任の挨拶が行われました。

2 理事の補欠選任

・理事の補欠選任を行いました。

理事 丹羽 秀樹君（自民）（理事永岡桂子君去る 9 月 30 日委員辞任につきその補欠）

理事 義家 弘介君（自民）（理事木原稔君去る 9 月 30 日委員辞任につきその補欠）

理事 稲津 久君（公明）（理事浮島智子君去る 9 月 30 日委員辞任につきその補欠）

3 国政調査承認要求に関する件

・以下の事項について、国政調査承認要求をすることに協議決定しました。

- ① 文部科学行政の基本施策に関する事項
- ② 生涯学習に関する事項
- ③ 学校教育に関する事項
- ④ 科学技術及び学術の振興に関する事項
- ⑤ 科学技術の研究開発に関する事項
- ⑥ 文化、スポーツ振興及び青少年に関する事項

4 下村文部科学大臣から挨拶がありました。また、櫻田文部科学副大臣、西川文部科学副大臣、富岡文部科学大臣政務官及び上野文部科学大臣政務官からそれぞれ就任の挨拶が行われました。

5 文部科学行政の基本施策に関する件

・下村文部科学大臣、西川文部科学副大臣、富岡文部科学大臣政務官、上野文部科学大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

丹羽 秀樹君（自民）

- ・2020 年のオリンピック、パラリンピック東京開催のムーブメントをどのように国民運動や社会変革に繋げていくのか大臣の見解を伺いたい。
- ・国家戦略特区の教育分野に関して、公共性の確保を図りながら公立学校の管理を民間に委託するとのことだが、義務教育は国が責任をもって行うものなのか、国が規制をして行わせるものなのか大臣の見解を伺いたい。
- ・文化芸術の振興に関して、今後、予算面での支援や教育面でも文化芸術の担い手ばかりでなく、受け手の感受性を高めていく教育が必要だと思うが西川文部科学副大臣の見解を伺いたい。
- ・科学技術を担う人材の育成が大切だと思うが、女性研究者の活用も含めて、どのように人材育成を進めていくのか富岡文部科学大臣政務官の見解を伺いたい。
- ・特別支援教育について、特別支援学校の施設等の老朽

化が進んでいるが、設備の整備等、国としてどのように特別支援教育に対応していくのか上野文部科学大臣政務官の見解を伺いたい。

中野 洋昌君（公明）

- ・学生が留学を思いとどまる主な理由には、経済的負担、海外生活や安全・治安に対する情報不足等学生の不安があり、それらを解消するためには国のサポートが必要であると考えますが、文部科学省の見解を伺いたい。
- ・学生が経済的な理由で修学を諦めることがないように、国内外で学ぶ学生のための奨学金制度の更なる拡充に対する大臣の決意を伺いたい。
- ・デフリンピック及びスペシャルオリンピックス等、パラリンピック以外の障害者スポーツの認知度の向上等に関して、スポーツ庁を設置して省庁の垣根を越えて一体的に推進していくことに対する富岡文部科学大臣

政務官の決意を伺いたい。

- 教育委員会制度改革について、中央教育審議会教育制度分科会の審議経過報告における教育長を都道府県知事の補助機関とするいわゆるA案を採用した場合の教育の中立性、安定性及び継続性の確保に対する大臣の見解を伺いたい。